

安定した心で、見通しを持って友達と一緒に取り組む子

白田 季微子

はじめに

快活で友好的、人なつこく周囲よりかわいがられることが多いが、反面、わがままで感情抑制の障害がある、と言われる、プラダー・ウィリー症候群と診断されたU男は、明るくのんびりとした性格で大変人なつこいが、反面、細かいことが気になってぶつぶつ文句を言い出すと気持ちの切り換えが出来にくく、周囲とのトラブルを起こしやすい傾向が見られた。入学当初は甘えも手伝って、わざとゆっくり動いてバスに乗り遅れたり、すねて泣き出したりといった様子が多々見られた。以下、U男が気分にと左右されることなく、自分なりの見通しや段取りを持っていろいろな活動に挑戦していけるようにと願って実践したことを述べてみたい。

1 プロフィール

(1) 生育歴

- ・昭和54年2月14日生。12歳。 ・定頭12か月、歩行24か月。 ・3才児検診で精神運動発達遅滞。
- ・A保育所、公立小学校（普通学級）を経て、本校中学部に入学。現在、中学部1年生。
- ・平成3年3月（入学直前）、米子医大で検査の結果、プラダー・ウィリー症候群と診断された。
- ・極度の肥満。身長137.1cm、体重70.7kg、ローレル指数274（H3、4）。
- ・両親が共働きで兄・妹も帰宅が遅いので、家の中で1人で過ごすことが多く、また、夜間も子供だけといった状況も月に3～4回ある為、食事管理、しつけが手薄になりがちである。

(2) 諸検査による実態

① 津守式乳幼児発達検査（H3、4）

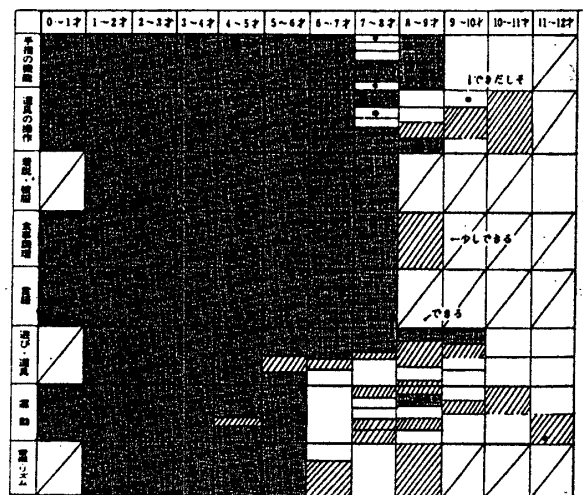
運動	探索	社会	生活習慣	言語
5:6	6:0	7:0	7:0	6:6

大体6～7歳の発達。肥満のため運動面が劣る。

頑張ったら～になるから頑張ろう、と思える時期。

② からだの輪郭表

遊び、運動、リズムに落ち込みが見られる。肥満によるもの、及び経験不足を感じる。言語面、生活習慣はある程度確立している。



〔図1〕 からだの輪郭表（H3、4）

・は9月にできるようになった項目

(3) 行動特性

- ・明るく人なつこい。行動を起こすまでに時間がかかるが、その気になれば素早く動ける。
- ・興味・関心を持ったことに対しては、自分なりに工夫して黙々と取り組む。

- ・こだわりがあり、何かをやり始めると最後までやり終えないと気がすまないことがある。
- ・気分にもらがあり、少しのことで気分を害してぶつぶつ文句を言ったり周囲とトラブルを起こす。
- ・清潔に対する意識がうすく、身の回りの整理、整頓も、指示されても中々できない。

2 取り組みの構想

(1) 指導仮設

個人目標

安定した心で、見通しを持って友達と一緒に取り組む子

つけたい力

- ・嫌なこと我慢できないことがあっても我慢し、指示されたことに向かおうとする意志力(自制)
- ・ある程度の見通しがついたら進んで友達と一緒に取り組もうとする力(協調性)
- ・皆と一緒に最後まで身体を動かせる、動かそうとする行動力と体力(体力)
- ・途中やめしないで責任を持って最後までやり遂げる力(持続力)
- ・食事に気をつけ、家庭生活でも身体を動かして肥満解消を図ろうとする意欲(自己管理の力)

U男は、目的や見通しを持つとかなり素早く意欲的に行動でき、また、'頑張ったら～ができる、協力したら～がもらえる、といった目的意識を持って行動できる。生活単元を中心に、意欲を持って生き生きと動く姿を引き出し、はりのある、動きのある生活を送らせたい。その生活の中で、得意を生かし、自分なりのペースを大切にしながらも、'友達と一緒に、ということのを常に意識づけていく。このことは、友達と協力して取り組むことを要求され、相手の気持ちに合わせることが大切であり、自己抑制の力につながるものである。学校生活の充実が家庭での自分の生活様式として生かされ、将来的には自分で自分の生活を自己管理していく力として身につけていくと考える。



すねてうづくまるU男

(2) 指導方針

- ① 自分なりの努力目標を持って生活や仕事に取り組ませる。
- ② 興味・関心を持つことを増やし、意欲的に取り組ませる。
- ③ 得意を生かし、自信を持って行動させる。
- ④ 協力の姿勢や頑張りを認め励ます。
- ⑤ 自己評価を自分なりに表現させる。
- ⑥ 劣等感を感じないように配慮しながら、食事と運動と身体の関係に関心を持たせ肥満解消をはかる。

3 指導の実際

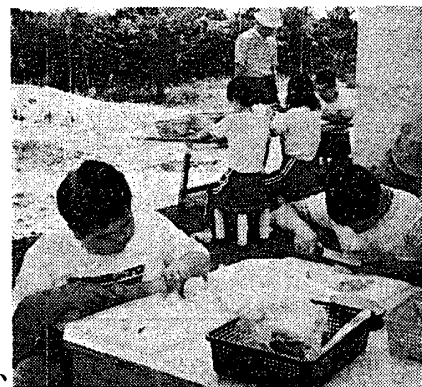
(1) 生活単元学習を通して

- ① 野外炊飯での実践 (得意な調理活動を基に、道具作りの木工や被服、工作、そして道具運びにも意欲的に取り組んでいった実践例である。)

題材名	手立て	楽しんで、力いっぱい
箸作り	竹という素材 カッターナイフの使用	黙々と作業。竹の角を少しずつ削っていき、丁寧にサンドペーパーをかけてつるつるにした。休憩時間もさっと進んで続きをやり始めた。


かまど作り	試行錯誤 徹底的に考えさせる 補助は最少限に	招待炊飯の時のS男の記憶をたどりながら必死で考え、レンガと敷石を使って組んだ。K男が丸めて突っ込んでいた新聞紙を一枚ずつはがしてかまどに入れ、燃やせるよう工夫した。小さい薪から燃やそうと捜して選んでいた。
飯ごうの ごはん	経験を生かす 得意を生かす 仕事を任せる	「きちんと洗ったらおいしいのが炊ける」と丁寧に米を洗った。火の番を進んで引き受け、時々薪をくべていた。赤チームの分の火の番も頼まれてした。飯ごうが沸騰して吹き上がる様子をよく見ていた。
台布巾作り	導入の工夫 作業のさせ方の工夫	示範をじっと見ていた。ミシンの速度を上手に調節しながら縫っていた。手縫いも、糸通しや玉結び、玉止めに何度も挑戦してやり遂げた。

学習に入る前は、「そうだ箸を作ろう」「皆で仲良くしないと田口賞がもらえんよ」と言っているが、ちょっとしたことでM男とけんかをしたり、与えられた仕事が気に入らなくてすねたりする場面も時々あった。しかし、U男なりに、自分はどのような物を作りたい、どんな仕事がしたいということを考えながら一生懸命に取り組んだ単元であった。野外炊飯当日は、友達と力を合わせてテーブルを運ぶ、やりかけていたみそ汁作りをM男に快く譲る、片付けを一番最後まで頑張るといった意欲的な姿が見られた。



調理をするU男

② 臨海学校での実践——船作り (大好きな工作、お父さんの乗っている漁船を作ることに熱中する中で、自分を強めていった実践例)

学習活動	手立て	U男の様子
どんな船 材料集め	発想を生かす 上級生とのペア	イカ漁り船(父親の乗っている漁船)を紙にかいた。電球や錨など、かなり詳しく描けた。S男に励まされて、一緒に協力してかなり厚い板を運んだ。
船体を切る	困難に挑戦 切る姿勢の工夫 励まし	幅35cm、厚さ7.5cmの板を鋸で切り始めた。初めは調子よく取りかかったが、なかなか切れなくて、椅子に座って切ったり、友達に手伝ってもらったりした。時間いっぱいかかって何とか切り離して船体を作った。
船体や材料に ペンキを塗る 船の飾り作り ①	補助 頑張りを認める 船の見取図の活用	 の……の部分に①に手伝ってもらって切った。喜んで船体に白ペンキを塗り、側面に「第五共栄丸」と船名をかき入れた。部品にもペンキを塗った。指示で、船の飾りを直した。薄い板を切ってボンドではりつけ、電球をつるす棒を2本たてた。もう完成と言っていたが、もっと工夫しようと話して納得。
船の飾り作り ②	自分なりの創意工夫を大切に	竹を切って前に立て煙突にした。かんぱんの上の方に小さい木切れを打ちつけようとしたが失敗し、何度もやり直していた。4~5回失敗してあきらめ、ボンドで付けた。自分で考え工夫して、殆んど一人で作業をした。
浮かべる	自己評価 頑張りを認める	板が厚く、浮力も充分でとてもよく浮いた。海では船とたわむれて遊び、大変喜んでた。自分のが一番だと自負している様子だった。

(2) 生活指導からの取り組み

① 1日の生活リズムの確立

4月当初は登校後の時間をスムーズに且つ有効に活用させることは1年生にとってはかなり難しかった。登校→生活ノート等の提出→持ち物の仕末→着替え→生活日程の記入→係の仕事(動物の世話等)といったパターンを毎日繰り返し指導し、現在は自主的に過ごせるようになりつつある。U男も例外ではなく、ある程度見通しを持って生活出来つつある。

4月	何も提出せず、制服のままで他の教室へ行って話し込んでいたり、兎小屋を見に行ったりうろうろしている。
5月	促されてから仕方なしに学級園の花に水をやっている。着替えに15分かかる。
6月	自分で昨日の学部だよりを見ながら小黒板に日程を記入し、それを生活ノートにも記入していた。
手立て： 一日の学習予定を黒板に記入しておく・登校～朝の会までの活動内容をカードで明示しておく。 指示を守っている時は認め励ます・誉める・飼育の仕事をするを目標として素早く着がえさせる。	
7月	小黒板の日程表と生活ノートの記入を済ませ、小走りに着替えに更衣室へ向かう姿が見られだした。その後、当番、係の仕事をしている。

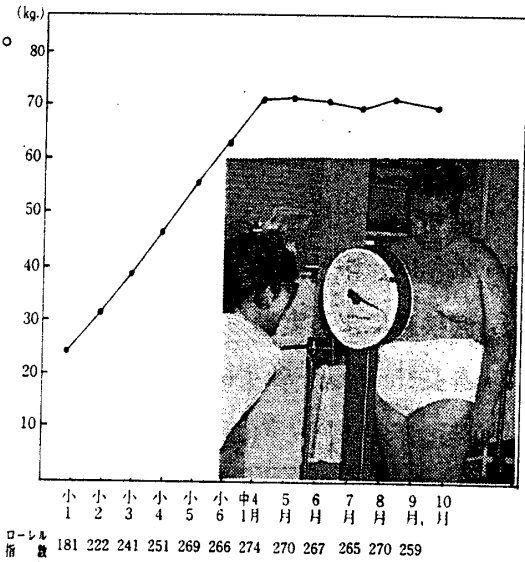
1日の流れを朝しっかり押さえておくと、見通しを持ち次を楽しみにし、自分で行動していく様子が見られだした。早目に予告をし、他に遅れないで行動を起こさせることが大切である。

② 身体の管理

a 身体を動かす……リズム・サーキットや合体、生活単元学習の中で、しっかり身体を動かすことを継続している。激しい運動は避け、マイペースで持続して運動することで運動量を確保している。「汗を一杯かいたらやせれるね。」と言いながら額に汗して頑張っている。

b 食事……肥満、脂肪肝、糖尿病の境界線にある。家庭のメニューを分析して問題点を捜し出したり、随時連絡をとって「高タンパク、低カロリー」の食事を励行してもらうよう働きかけをしたり、本人にも前日の食事内容を尋ねたりして意識づけを行った。7月頃から食事のメニューを記録して見せに来たり、体重の増減に関心を持ったりしてきつつある。家庭では、食事前におにぎりをこっそり作って食べた、ジュースを飲んだ等の様子が報告されまだまだであるが、食事制限が劣等感とならないよう配慮しながら健康管理に努めさせたい。

c 体重……小学校及び本校入学後の体重の推移は右表のようである。校医に相談し、夏休みに入院して食事療法指導をしてもらった。1日2100kcalまでおとしたが期間も短く目に見える効果はなかった。「1600～1800kcal位の食事、間食は絶対しない、ゆっくり噛んで食べる」という指導を受けたところである。現状維持を目前の目標とし、少しずつ減少の方向へ向けていきたい。



4 考察と今後の課題

入学当初の甘えの姿から少しずつではあるが、見通しを持った自立した姿へ変わってきている。野外炊飯や臨海学校での取り組みを通して、譲り合ったり協力したりする様子が見られ、少しはたくましさを感じられるようになった。9月には運動会で赤組の副キャプテンとなり、旗手を堂々とつとめたり、決勝係を一生懸命する等、意欲的な姿が見られた。しかし、日によって、時と場合によって幼稚な行動をとることもまだまだ見られる。生活リズムを整え、医療との連携をとりながら食事指導を徹底して行うことで、体重の減少をはかり、指示に従ってスムーズに行動できるようにしていきたい。ひいてはそれが、安定した心で友達と協調して行動できることにつながると思われる。